紅葉山文庫

そもそも天照太神を
二代にはあらせたりけ
みをそ〳〵と三代を
ときて世をりは代をば
ふれはよりんぞんの
相人の代にしてきき
この三は五の三代を
ちはやぶるやとと
はく〳〵やあんぞや

地神五代のそこに先ち
ちはやぶるかおよ
ゆまひしくかやこの
ひかりでこれをしるべ
ぶんご天王ちはつぶんと
ちはやぶる今上のみこと
はるゝ日のよてはるゝ海と
中てんぢくのびゝ
さて人もこのそこにあら

神武の五十七年に
懐胎八十年かゝりて
その名を孔子と号とこ
ろがせてがうのちんとぞ
二代とせい三十一
父の名をゆうがうの
地さうちんへのぼりて
孔子のつぐきくげさう
とんくやそしりぐやと

老子そうくにたんじやを
もくとうあてまうれむ
そけいは夫二人となん
ざいせい八十にさいより
孔子ながくにたんじやを
あいがんしれむとあかや
その名をさうしたり
もきさいざんのすぐることを
かやとうあてゆとわびと

がへ流とひこいちゆん
あまこ二ゆあいせをも
三代ちん孫い二十八
文ハ子おうちゆのぐ名
孔子のぐなりしハ七
ぐのくりがうのきとん
くらいハ三十二年に死と
孔子七十三に死と
文代うせ二年に

みがうんせいのそしうけど
それひ九人ちすかるこ
がんくいながくにまるこ
くらい三子井一乃
もやはくろくぬとうや
代いくの二十年
いとく三十二年に
ムうこ年がうのきん
ぐ名の
呉越の戸くう呉いかそ

かりせし二十七年に
紀伊国ひろのこおりにて
高の権現をつくりたる
六代くうけん三十三
ちくうきょう六年に
ちうさ出雲の大御ちう
わうこの水ちうさ出る
くうきょう四十六年に
天下ちと三十六ちうく
かりきょう七十二年に
ちうんのちうこう泰山にて
風雨のなんとまつのまれ
かげむくれてそのまつふ
変のちうんとなり法ふ
八代くうけん二年のちう
ちうんのちうこう文書とやく
くうきょう三十四日たり
かげーやちうーやと里書

二

旨六十四人かれ
かりけんの年おちうてこ
海上とくうもせ法ふ
くうけん八年そのうちう
ちうこうの系ちうとけ
大のきえの年二月とそ
くうけうかりそこ法せらる
かけんのくうそかりけうる
ちうこう初ちうく

かんやきくもを向く行
りの業ちうくうけんと
ちうこうのち年ちうく
んやきくかせへて
かんやきくと焼りちうく
くうきょう二十三年にそ
かけんの二十七年かりく
九代のくうくう十八りす
くうけちんとこそーりれ

三

くわんぶ十八年よ　そぬいをうに　とし　さかり
十代ゆめどん十年に　帝しんぐうにうまれ
ゆめどん六十七年よ　ゆめどうくうせて
そぬりんてんのうかも　こうくに　帝十九年
十五ゆめん二十ゆめ　仏法の　ものゝ川くまよ
天照太神わかゝ　とゆめん三十六年十八
けさを門をかりひらき　たのこゝうてうる
とゆめん九十七年よ　さてんぐうやうんてん
仏法ちがくくりいぐうん二代のめいてい

ゆめでんのうの白きうま　もゆへ白馬寺ゆとや
あれいんどの寺をゆめ　十二ゆめ十年よ
わつの国のちぐゆまは　ことゝの中ちとつさ
ゆめいんの十七年よ　くに野のまんぐう初てら
十三ゆめいひてんりう　わつの志賀ゆ　林とう
十四ちくわせいもの　やまくひの　ものなる
そのくり一ゆ七天とそ　かぐくの国ゆとうる
ゆめんれ　ゆ　林とう　ゆめとおやうとせうんて
ひぐゆ国ゆで　わとうゆ　ゆてうゆ

又さてもおそろしきものかな
すべしんごしそのきはさ
ちりわかりしの法とぐ
きんらそくさいそらいの
ちくぜんみそのかくしく
すれいちおしきん夫丑ゆり
こそはぜんごしはざこしろ
のりよはとしちくぜんな
十六おしきんおとやまと

のちのちぜんのまいのまい
ゆくゆくは代の世孫まつり
まごこいたの世ゆりて
あいとたいどきてこの時
りけのりじとうこ孫
今ろ八まんこれなまや
聞まこいそろりさて
やてくう寺の大明神
参ありこいを

兵の国ゆりとれなごり
二人れ女ろこはかり
ゆりぜんじのまよも同代
十七ろくさの国ゆかも
たの代又ろはそこれ
ゆきとぜんしたなやま
あこの国こはきろふと
ちたるとろ事も
その法こはいろじせ法

やろどもとそこりの
ものそちゆ女ろを
ろさ国をつ国ゆり
たりの衰おりまを
三ろゆの河をゆられて
のりてれこゆりこれ
ゆ孫ぜけいごきる
いしろりじゆ時ち
ものひご

歴代の数、人たり、
五百八三百六十よ
十八年ちまもの
十九年せ、ゐ
もゆ人の子と
二十一年ぐし大和のくに
初、汗内をこと
ちとりわとこにあり
をとり船はあり
いとこのまもとにせ
船をひせあさくふ

同しくゆもやく九年よ、
ゆもやく二十二年は
うゑ鳥の文うゑよ
ゑゑ神ゐてゐんぐや
きくすめえん姫ゐ
二十六わんことぐこ
わくまもゐをひこもゐ
をゑ神山ゐの
ゆくさにゐて十二年
のちをくんよりは

さいてんだいくらのおとこ
にて　二十三年
だいはちくしのくまの
やうりゆう　二十九年
神んぐうとなりてぜんこくす
越前のわとこの大明神
こんがうせんのごんぐんそ
大和国のいけとはこ
わかせんてこどもごんぐんと

だいはちんじやのてこはる
りゆう　二十四年のぶてこの時
才三のはるかさいてこ
家てい十六ごのえらう
そのこら家ただ大きさん
二十八代りんうんは
二十九代のせんくいの時
ふのこやかたしまた
きんがうじぜんこあくこ

三十こうんめてこれとこさ
ぜごこ　ぜんこ
きんめこの代よりはまんを
人中天皇のこやをこに
ひこりはよりこまんれ
中ぞこよりとこくさこ
こうめこの代よりてこん
かれもりえこまんごこの
ときれんぐこうこうこと

くこさ国こりせいこと
はるのこくこくこさ
ぬぜんこうこわこと
仏のこまんくこちこや
ふんぬだんのかれり
こけやこれてこよざ
こたこ　はてこの国れ
ひこまこれこりはと
こまこちかこりこ

ちかの国へはてしとも
三十一代びんこうの四年
十月
聖徳太子はくんじゃ
りんじきのこと奏りは
ゐるじゃうどのまへ
ゐぐらべきそとひわんと
ひてしらせたてまつる
地のくまてらをきこう
なんでんのくもやうそ

今ぜんくはじのふしぎ
二年正月一日
ちゑのいさかのはゆめ
我いかまくせがさう
すがちかのたいなくり
くらふとし入ぬとも
八月ふかまいたきこと
そのとき十二月ふしく
ぶうんへいわんわるとや

七

ちかとこうこうこまやこの
又きゝぐとき子とを
きゝうくきさいとくゆ
佛師だくさいくはり
しやうでくとをたてよつく
ぶぐきひさうのはすを
かくもかりはすてたれい
三十二代すゐこ二年
十月
ちかくはかまはこ

きゝどとをたひくすい
まこはこのきさきを
びんこうのはゆゆ佛師
この時ふきんらしやと
今をゝぐくじのりんでんなり
きややのきゝ佛とやき
ぐゝやさ成て西やまと
きゝくやとれはふ
きてんこくじとやこんの

こしろいはの国をしたがへ
給ふこと六十六ヶ国
みなどをしたがへ給ふ
後こうめいのむことゆ
代とき給ひしなり
四十九年にしてかの
もろこしをしたがへ給ふ
とこの上こうらいまで
よくこれ二十一年なり

三十三代ゆうりゃくの天
皇四十五年にそれ
三十三代とこのてい
やうくたかとせやは
とこ三十九年なり
わこうにはそうにたく
ぞくそんじそこやう
くしゃくこうぐんなり
大むかうとうかりて

帝うこだつぬよりのうち
とこの二十二年ゆき
わまはいわ孫の二十代
とこの二十九年にた
ゆうーゆ二十九さいをも
うけうりんぎん十さいも
ぜてこう大むのうづきよ
ちゃんめい天皇のきさき
ぢゃんの子者のぢゃうも
ぢゃんの子者のぢゃうも
ぢゃんの子者のぢゃうも
ぢゃんの子者のぢゃうも

たいこよりのれいをあり
ぬ天しまりんぢゃうん
けこの帝のぢゃうり
帝うくたかうせ給ふ
三十五代じゅめいのぢゃう
てんだいうんりゃくれう
ぢゃんの子者のぢゃうも
三十六代くつぎくい
ぢゃうのぢゃうの三年なり

三十七代ゆうりゃくの
御ときてんちのみかど
位をゆづりてしまの
ひろにはなりぬ
三十八代さいめいの
大和國とよらのみや
三十九代てんちの御宇
文中ゆうてしまの尾よ
りとりの松てしみ
ゆ

たいくわのちのみかどこうん
その位をうけとりて都をば
とよさのくにとぞいはりける
百くわん八年ばかりをへ
あれをくりぎくてうこ
うぶんの事ちかの
わかのたけの松をこれ
ずすとくしまとう
ちをこえかびくうの
ひ

この御ときに大ぶつをよくわん
わらをもて民をすくはる
きさきの御ことを
ゆたしき月のかたもすぐ
ちゝびよりめでゝわまでり
もてゝ人をのとゞかち
ぬ代にあるそひわりて
ゝづくびをもてたまふ
みのこの六ふかちゝ海を

かりどこ民をわたりたく
四十代ときてんしとそ
ひ君ゝ時に位さの時
こうんとゝべてあくせ
みたひそてとひろへを
てんちのゆるゝかりどと
ゆ井ゝ大ごしけまけて
てんむゝ大和をうりとの
天ぢ二年ふわかをかた

三井寺焼（ぎょうけい）

天武三年ゆきのまつりごと
ちかくてもろうよりはじめ
てんむ七年やまとのくに
ゆきごきたん帝十二年
たんかいこのゆきなるを
見いでてんちのれいをも
四十二代いうんむのれいを
こゆるとて世を国うへ
だいせいくいそこのもりを
見こそちのれいをも
たんかい帝二のれいを先
くいうしきとりくしとり
あちかぶてゆき日とゆ
みゆゆ明神いてたまふ
くいうしきとりくしたてゆふ
きびのたにきてうせるを
わくいまこゆきやいしのれいを
ぐんせんこうこうせれば
やうさいしきわいしをかぐ
ゆきをいはれのとくやまと
なりけれ七代ぐんこうこの
ゆ祭てうかぐ中わひ光

天武三年ゆきのまつりごと
てんむ七年やまとのくに
ゆきごきたん帝十二年
四十一代ぐんこうこのれい
神ゆゆまとうぐちかぐ
見もれゆ〳〵ゆゆ原うり
くぐゆふいこのれいを紀
四十三代ぐんこうこれい
ゆれゆを七代ぐちゆきき
帝ひのゆゆこちゆふ
ゆゆこのゆりこれ
てんやゆ年こいづれ国
みこそぐじのさいぐんぐう
ゆゆりき天平六年お
ゆくしおまりれ明神
ちゆこいれのとくやまと
なりけれ七代ぐんこうこの
ゆ祭てうかぐ中わひ光

其出家して帝山の山寺
帝山天帝一年中よ
それより六月おもしろ
四十六代ゑうしんゐ
きこゑぎ帝ごりさうぐ
さい世八十よさいあり
ちうあてしうごんなる
帝しれ新たさ大寺
大仏ちうあまさか

大寺よくうんの山とあり
のこれゆとろぎしうとや
くれ井の雪てうりてい
なりれみぐの山ひとめ
もくさいきのなぐれこそ
せうかう元年みちのくち
天帝せうかう四年ふ
流ちうんとう成就して
時のたりしう天ぐくろ

なりれ新たさうあ
そおちうめのことひく
たんくいこのたて法ふ
大寺よくうんの山さくあり
国宝林の名と作さ光
四十四代のぐんやて
まいき二年ごうぐんは
せう帝でんふみぐ茶
みれぜんはせんぐ

ぐどうふ中れたんやと
宝んの代ごうぐぐじ
とうちんだの寺れそう
宝んの日とう六年よ
さうれかうちんうとや
これい天むの山ひまと光
くあて山ゆ中法
なるれぜんあくそ
れのぐきき二年よ

くゎ興ぜんりん五郎は
きびの大臣となりて世を
りやくのあくとさぐりて
月日はすぎぬれば
のちふたたび天皇となり
ぜんもりくゎ年じ
十一ゐんのくりんどんちり
かきれりやの人九尺
ぎんきぜ年ふくせ寺ちう
ぜんやくちう元年よ
りちう三年ゑ女だいの
ちうと移りの志んようと
あれをてんむの御子なり
ゑまちにぜのくりんそんを
たうさ一丈六尺ゑ
四十六代いまゐしてい
ぎんき二年ふくちうと
ちうとくたりかちよく

ぜんりん者とまちをん
あれのきおくいんとまへ
月もちうあるれうき
時ぜんりん見ちのり
もちうそんぜやいうじ
大神くやうぜたまゑ
四十七代ちうあいて
もちうあいりじ六年ゑ
四十八代せいちうく
ぜやしがちうのちせいて
なんぜの海ちと流ゑも
さそんぜくふれゆく
この日年へたちたまひ
きやうざがちうはぐじて
ゆ山寺をそのはちう
たえまのまんだらの宮を
わつぢの國へ配流なちよ
ちうなんてちそのこと

せうとくたいしごえ元年より
そのころ
ちかごろ
あるひとのさいしょ寺
ちかねとうをてんまの
きいうんえ年十月きの
ぢんごけいうん二年よい
うとう　手ごんやまと
ぢ日明神大ぬのうに
ぢ十九代のくらうめんて
ぢんらうとぢけるうと
くらうめんかうき三年よ
ぢうさ元年よだいさうの
河内国のひとうとう
みなもの山ちうなま
かうしさえ元年より絵とう
ぢんの国こうぢ
えんぐん
ちうひき絵ぢ考ちうぐんと
ちうくらく天ぢんぢかうと
まちだらの山ぢんぢうぢい
くらうめん天ぢ元ぢんとう
ちうのさえ元ぢんかうきと
二十九ぢ十てうと絵ぢ
だいだうかく寺ちとうや
ぢ仏のかうごとのくうい
ぢ十ぢうんもものえんかやく元
日ぢんかやく三年より
きうがうたんぢかうさのと
八まんぢくせんぢより
たしせうとくぢんごの法
ぢうき六年中ね姫
その法ぢべの中ぢまの民
くらうめん天ぢ元年ぢ
ぢ十ぢんごとをやくぢ元
小ぢ元だんぢまでぢ
ゆうぢ元国ぢうとく

初とうの下ぎょうの
ぶ日のりくへめのうこ所
でんぐうしゑぐんたてまつる
十月二十一日りり
平ゐん者しい今ゝ東
くゝ西ゝ寺をうつしや
ぎじの寺をうごかす
なくまつりやまりと
ゐんりやく二年三の月

あんりやくゝ六年いとくゝ
くゝんじゐんりやく七年ま
くゝんじゐんりやくゝ十二年
初とのうぎへんぐうれく
月ゐんりやくゝ十五年
ゐんりやくゝ十六年りも
ゐんりやくゝ十九年ゝ
ゐんりやくゝ十九年ゝ
ゐんりやくゝ十九年ゝ

みんぶしょうなかもとせいはん
もろくんどうたんどうも
きぞくをうちうちうちまれ
ちゝうえんむのナニのみ
やしきまれ大君もきれや
弟神たちうちまとそ
僧のくりんねと言うは
きしゆんナニはれくに
人まうみナ三代乃
毋後の国のうえとぬも

せんきうちをたりうを
だいごのうえんをかりの
五十三代いみんをれ
うるのをうこうがやじも
みんをせうしナニ年
五十五代のをんをうく代
をれたうこれひと世をわうをひ
五十六代せうまれ世
みんじうをぎやうをくはやす

をを年かをひをたんどやす
まれをもをゆんをの四代
せうをを二年の三月よ
をををれらてんをを
かんせうぎやうをうんを
てんわん二年のやうぎよ
ひ井ををれひをやうをぬ
ぎやうぐうを年をのうを
うをの文をて一げをゆん

かけ年ぐるまんげるを
ゑれ山のてうこんあるど
我とゝざのゝ松ありく
それりとぎやくくゝ色
松ゝきどやぐりん六年ゑ
びんどやのゝゝしれれ
ちくゝやまゝのゝきさうど
ゑんちんてんだゝとゝかる
そのゝ二年寺ゝかく

わたよゝまん山てせん
ゝれこゝやゝゝこれくど
かゝをとゝゝかゝべゝとゝり
やゝれゝ山ゝゝわぐゝり
ゑんゝんぎゝくれゝゝゝ
ぢゝぐりん八年いせたんど
ゝゝどきどゝぐりん十年ゑ
ちせゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝちてんゝゝりゝんゝの

まゝせきゝゝゝとゝゝらゑ
きゝんのゝゝゝゝゝゝゝの
どゝうぐりん十ゝのゝゝゝゝさ
ゝゝゝ二十六ゝゝゝゝ
ぐりんゝゝゝ年ゑ業平記を
だゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのゝりんどゝくせゝどゝんゝゝ
五十八代ゝゝりゝゝゝゝ
たゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぢゝぐりん十一年ゝゝて
ひんゝゝ山ゝゝゝゝゝゝく
ゝんたゝれゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ十七代ゝゝゝゝゝゝん
ゝゝゝぐりんゝゝゝ年中ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんゝ元年ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やくほうんにねんなり
そもそもしゆいうちんの
ひとりあるべからず
すなわち北伊国五郡
六十九代いうぐのてい
小野のたかいもり
代とてうぐのきさ
六十代いだぐのてい
うんすやうせいさいわり
こまつれ院のゆいこと
まことに世にあるとうん
一首に長かりし
明神ぐまだまつ
ひとりんへふむまつ
とうれ大臣はれ元
そうけんぐやとり
ねんさ元年二月より
はれとやたんどやうと

とんうくてあれそ
ねんぎ元年うぐのてい
門内のたぐのびやうん
ねんざてはゆいうんや
はゆいのなりぐさすこは
ゆれれぐやとかりはる
ねるよりぐ院ねんぐの代
なりれ東大寺ねんやと
とうれ三ねんぐ八ねの

はゆいうんぐまれはさ
みんなぐおもろはさ
ねんぎの代はゆうぐんと
ぐんまれはさなり
ゆしはてまもとも
りはいぐよ白ぐ
えんぎ十七十二月
なりぎねんぎ十九年
ねんやとはゆしのうんと

えんぎ一の法やまくらとも　あるうしろのれいへの
二つのれいやもとづけ　えんぎものはうりはなれ
ゆくくしたんだやす　父ちゝのうしろ
かんごんようてうくやと　のめしそこなそこなへば
ふ　文ぶんとうんどやしと　うんぎ七年なりまをを
かぢをとゞめくりうと　六十二代ゆくれいう
せしへ文年しを　うんの　中だぜしゆしすりお
かんせうぶのくてひを　天ぶ一元年十二月
おしよゆさうけ　六十二代てんりやく元

天祿しもんのる湯をも　小暗へうしたくまつ
天りやく十年ぶざしよ　あさまたなのゆがをと
たちまちのりをとと　むし上せいたがうあろ
三文政中のちん月よ　門せいやでんれて
ちんどやとまつべわそ　ぐのやなる地作り
我いのれまんやふ　一をていびんをまつの時
えんさくてへ中よ　いさくとおしつたり
ぬぐまちんもん仕り　門へぐまつせく
ぐちんぐいとせーどん　すかちぐのなる

第七代孝元天皇の御宇
みのすけ第七代孝元天皇
ゑんとの天てんぐ
ふしのへどさむらひ
とは第七代孝元天皇
ぎまくこのろのんじつか
時ふたんぐんいまのちご
ともには華とぞ
ふ龍のたてつぎ第七代

第八代

第八代孝元天皇の御宇
ようや明山ぐ
りつけとぐどーの
天ちゃうもあり
ひくしちくぜんの国かて
妙法蓮華とえんぜつを
そのぬわまこのみ
九上へよきじせり
うまもせ十ゆしよて

第八代孝元天皇の御宇
かりのはたをさやや
ことはうんぐどんぐんせ
きんせいものろりして
ぎれくうれえんぐやや
六十三代ちんゆうめん
ちんゆてんぐん三年ふ
ぬれなのとれうむをあるう
くりんは二年おれくぬ
死山ちかりて出家ありハ

第八代孝元天皇の御宇
六十三代まいぜいかん
うりあいこうをさせんあり
ふむうにてうぬとうるを法
ぎりのひさをやんをら
ぎりんのまりのとこうい
ひうう紀りぐぬんどうを
六十六代死山れかん
ぐりふをびまりて
れもうんぬがまりとや

此御代に四十一ねんくりんこうのはじめはかりぎょうろう
六十六代一条院　　おいえん元年さかれやうち
りんりんとしらせてうちを　　おいはん上人にきをとそ
一条院えん二年より　　きやうぐりりとしをびそめ
きやうやえんちんをじと　　一条院えい元年より
こんごうりとも名日つぐ　　はなはいとうよりとうや
ちやうげいえん風院えいそうより　　きじと西ろうこいつてふ
一条三ヨやく二年より　　かんせいきやうぞうやで
ぎをいねとうこやくをう　　一條院代のやくどうんの

ゆうりふ山ちやうをあらう弘　　きえん寺とうりんかんへ
ゆうこれ関白みちかねの　　ぢんとらしてたりまた
ぎをりこんぜん　　清少納言ぜいしようなごん　　わうぞめ寄こせれたき
いうこ弘ひとも小ちうさぬも　　みなこの所代人をしそ
六十七代三條院　　ぢんとらんせいりくろへ
くりんえんぶうやうこそや　　六十八代こ二條
この院ごうだんりやうと　　六十九代ごりゝの帝ゝ
ちうりやく元年失院ちん　　きとをけくこのちうの
わうせて二万七千よ　　後朱雀ちやうこう二年ゝ

八幡太郎よしいえ
七十代のごもんぜい
貞任宗任ひきつれ
七十一代ごさんぜ
七十二代ごかしわ
三井寺とぼうぜ
なりのみやとぼうぜ

八まんたろうよしいえ
七十三代りかしわ
たかをかなりたんじゃ
七十四代ごしらかわん
七十五代ごりょうわん
七十六代ごとばわん
七十七代ごあとごとばわん
七十八代ごつちみかどわん
七十九代ごりょうわん
八十代ごしらかわ
八十一代ごとばわん
八十二代ごつちみかどわん
八十三代ごかめやまわん
八十四代ごごうだわん
八十五代ごりょうわん
八十六代ごとばわん
八十七代ごあとごとばわん
八十八代ごつちみかどわん
八十九代ごりょうわん
九十代ごしらかわ
九十一代ごとばわん
九十二代ごつちみかどわん
九十三代ごかめやまわん
九十四代ごごうだわん
九十五代ごりょうわん
九十六代ごとばわん
九十七代ごあとごとばわん
九十八代ごつちみかどわん
九十九代ごりょうわん
百代ごしらかわ
百一代ごとばわん
百二代ごつちみかどわん
百三代ごかめやまわん
百四代ごごうだわん
百五代ごりょうわん
百六代ごとばわん
百七代ごあとごとばわん
百八代ごつちみかどわん
百九代ごりょうわん
百十代ごしらかわ
百十一代ごとばわん
百十二代ごつちみかどわん
百十三代ごかめやまわん
百十四代ごごうだわん
百十五代ごりょうわん
百十六代ごとばわん
百十七代ごあとごとばわん
百十八代ごつちみかどわん
百十九代ごりょうわん
百二十代ごしらかわ
百二十一代ごとばわん
百二十二代ごつちみかどわん
百二十三代ごかめやまわん
百二十四代ごごうだわん
百二十五代ごりょうわん
百二十六代ごとばわん
百二十七代ごあとごとばわん
百二十八代ごつちみかどわん
百二十九代ごりょうわん
百三十代ごしらかわ
百三十一代ごとばわん
百三十二代ごつちみかどわん
百三十三代ごかめやまわん
百三十四代ごごうだわん
百三十五代ごりょうわん
百三十六代ごとばわん
百三十七代ごあとごとばわん
百三十八代ごつちみかどわん
百三十九代ごりょうわん
百四十代ごしらかわ
百四十一代ごとばわん
百四十二代ごつちみかどわん
百四十三代ごかめやまわん
百四十四代ごごうだわん
百四十五代ごりょうわん
百四十六代ごとばわん
百四十七代ごあとごとばわん
百四十八代ごつちみかどわん
百四十九代ごりょうわん
百五十代ごしらかわ
百五十一代ごとばわん
百五十二代ごつちみかどわん
百五十三代ごかめやまわん
百五十四代ごごうだわん
百五十五代ごりょうわん
百五十六代ごとばわん
百五十七代ごあとごとばわん
百五十八代ごつちみかどわん
百五十九代ごりょうわん
百六十代ごしらかわ
百六十一代ごとばわん
百六十二代ごつちみかどわん
百六十三代ごかめやまわん
百六十四代ごごうだわん
百六十五代ごりょうわん
百六十六代ごとばわん
百六十七代ごあとごとばわん
百六十八代ごつちみかどわん
百六十九代ごりょうわん
百七十代ごしらかわ
百七十一代ごとばわん
百七十二代ごつちみかどわん
百七十三代ごかめやまわん
百七十四代ごごうだわん
百七十五代ごりょうわん
百七十六代ごとばわん
百七十七代ごあとごとばわん
百七十八代ごつちみかどわん
百七十九代ごりょうわん
百八十代ごしらかわ
百八十一代ごとばわん
百八十二代ごつちみかどわん
百八十三代ごかめやまわん
百八十四代ごごうだわん
百八十五代ごりょうわん
百八十六代ごとばわん
百八十七代ごあとごとばわん
百八十八代ごつちみかどわん
百八十九代ごりょうわん
百九十代ごしらかわ
百九十一代ごとばわん
百九十二代ごつちみかどわん
百九十三代ごかめやまわん
百九十四代ごごうだわん
百九十五代ごりょうわん
百九十六代ごとばわん
百九十七代ごあとごとばわん
百九十八代ごつちみかどわん
百九十九代ごりょうわん
二百代ごしらかわ
二百一代ごとばわん
二百二代ごつちみかどわん
二百三代ごかめやまわん
二百四代ごごうだわん
二百五代ごりょうわん
二百六代ごとばわん
二百七代ごあとごとばわん
二百八代ごつちみかどわん
二百九代ごりょうわん
二百十代ごしらかわ
二百十一代ごとばわん
二百十二代ごつちみかどわん
二百十三代ごかめやまわん
二百十四代ごごうだわん
二百十五代ごりょうわん
二百十六代ごとばわん
二百十七代ごあとごとばわん
二百十八代ごつちみかどわん
二百十九代ごりょうわん
二百二十代ごしらかわ
二百二十一代ごとばわん
二百二十二代ごつちみかどわん
二百二十三代ごかめやまわん
二百二十四代ごごうだわん
二百二十五代ごりょうわん
二百二十六代ごとばわん
二百二十七代ごあとごとばわん
二百二十八代ごつちみかどわん
二百二十九代ごりょうわん
二百三十代ごしらかわ
二百三十一代ごとばわん
二百三十二代ごつちみかどわん
二百三十三代ごかめやまわん
二百三十四代ごごうだわん
二百三十五代ごりょうわん
二百三十六代ごとばわん
二百三十七代ごあとごとばわん
二百三十八代ごつちみかどわん
二百三十九代ごりょうわん
二百四十代ごしらかわ
二百四十一代ごとばわん
二百四十二代ごつちみかどわん
二百四十三代ごかめやまわん
二百四十四代ごごうだわん
二百四十五代ごりょうわん
二百四十六代ごとばわん
二百四十七代ごあとごとばわん
二百四十八代ごつちみかどわん
二百四十九代ごりょうわん
二百五十代ごしらかわ
二百五十一代ごとばわん
二百五十二代ごつちみかどわん
二百五十三代ごかめやまわん
二百五十四代ごごうだわん
二百五十五代ごりょうわん
二百五十六代ごとばわん
二百五十七代ごあとごとばわん
二百五十八代ごつちみかどわん
二百五十九代ごりょうわん
二百六十代ごしらかわ
二百六十一代ごとばわん
二百六十二代ごつちみかどわん
二百六十三代ごかめやまわん
二百六十四代ごごうだわん
二百六十五代ごりょうわん
二百六十六代ごとばわん
二百六十七代ごあとごとばわん
二百六十八代ごつちみかどわん
二百六十九代ごりょうわん
二百七十代ごしらかわ
二百七十一代ごとばわん
二百七十二代ごつちみかどわん
二百七十三代ごかめやまわん
二百七十四代ごごうだわん
二百七十五代ごりょうわん
二百七十六代ごとばわん
二百七十七代ごあとごとばわん
二百七十八代ごつちみかどわん
二百七十九代ごりょうわん
二百八十代ごしらかわ
二百八十一代ごとばわん
二百八十二代ごつちみかどわん
二百八十三代ごかめやまわん
二百八十四代ごごうだわん
二百八十五代ごりょうわん
二百八十六代ごとばわん
二百八十七代ごあとごとばわん
二百八十八代ごつちみかどわん
二百八十九代ごりょうわん
二百九十代ごしらかわ
二百九十一代ごとばわん
二百九十二代ごつちみかどわん
二百九十三代ごかめやまわん
二百九十四代ごごうだわん
二百九十五代ごりょうわん
二百九十六代ごとばわん
二百九十七代ごあとごとばわん
二百九十八代ごつちみかどわん
二百九十九代ごりょうわん
三百代ごしらかわ
三百一代ごとばわん
三百二代ごつちみかどわん
三百三代ごかめやまわん
三百四代ごごうだわん
三百五代ごりょうわん
三百六代ごとばわん
三百七代ごあとごとばわん
三百八代ごつちみかどわん
三百九代ごりょうわん
三百十代ごしらかわ
三百十一代ごとばわん
三百十二代ごつちみかどわん
三百十三代ごかめやまわん
三百十四代ごごうだわん
三百十五代ごりょうわん
三百十六代ごとばわん
三百十七代ごあとごとばわん
三百十八代ごつちみかどわん
三百十九代ごりょうわん
三百二十代ごしらかわ
三百二十一代ごとばわん
三百二十二代ごつちみかどわん
三百二十三代ごかめやまわん
三百二十四代ごごうだわん
三百二十五代ごりょうわん
三百二十六代ごとばわん
三百二十七代ごあとごとばわん
三百二十八代ごつちみかどわん
三百二十九代ごりょうわん
三百三十代ごしらかわ
三百三十一代ごとばわん
三百三十二代ごつちみかどわん
三百三十三代ごかめやまわん
三百三十四代ごごうだわん
三百三十五代ごりょうわん
三百三十六代ごとばわん
三百三十七代ごあとごとばわん
三百三十八代ごつちみかどわん
三百三十九代ごりょうわん
三百四十代ごしらかわ
三百四十一代ごとばわん
三百四十二代ごつちみかどわん
三百四十三代ごかめやまわん
三百四十四代ごごうだわん
三百四十五代ごりょうわん
三百四十六代ごとばわん
三百四十七代ごあとごとばわん
三百四十八代ごつちみかどわん
三百四十九代ごりょうわん
三百五十代ごしらかわ
三百五十一代ごとばわん
三百五十二代ごつちみかどわん
三百五十三代ごかめやまわん
三百五十四代ごごうだわん
三百五十五代ごりょうわん
三百五十六代ごとばわん
三百五十七代ごあとごとばわん
三百五十八代ごつちみかどわん
三百五十九代ごりょうわん
三百六十代ごしらかわ
三百六十一代ごとばわん
三百六十二代ごつちみかどわん
三百六十三代ごかめやまわん
三百六十四代ごごうだわん
三百六十五代ごりょうわん
三百六十六代ごとばわん
三百六十七代ごあとごとばわん
三百六十八代ごつちみかどわん
三百六十九代ごりょうわん
三百七十代ごしらかわ
三百七十一代ごとばわん
三百七十二代ごつちみかどわん
三百七十三代ごかめやまわん
三百七十四代ごごうだわん
三百七十五代ごりょうわん
三百七十六代ごとばわん
三百七十七代ごあとごとばわん
三百七十八代ごつちみかどわん
三百七十九代ごりょうわん
三百八十代ごしらかわ
三百八十一代ごとばわん
三百八十二代ごつちみかどわん
三百八十三代ごかめやまわん
三百八十四代ごごうだわん
三百八十五代ごりょうわん
三百八十六代ごとばわん
三百八十七代ごあとごとばわん
三百八十八代ごつちみかどわん
三百八十九代ごりょうわん
三百九十代ごしらかわ
三百九十一代ごとばわん
三百九十二代ごつちみかどわん
三百九十三代ごかめやまわん
三百九十四代ごごうだわん
三百九十五代ごりょうわん
三百九十六代ごとばわん
三百九十七代ごあとごとばわん
三百九十八代ごつちみかどわん
三百九十九代ごりょうわん
四百代ごしらかわ
四百一代ごとばわん
四百二代ごつちみかどわん
四百三代ごかめやまわん
四百四代ごごうだわん
四百五代ごりょうわん
四百六代ごとばわん
四百七代ごあとごとばわん
四百八代ごつちみかどわん
四百九代ごりょうわん
四百十代ごしらかわ
四百十一代ごとばわん
四百十二代ごつちみかどわん
四百十三代ごかめやまわん
四百十四代ごごうだわん
四百十五代ごりょうわん
四百十六代ごとばわん
四百十七代ごあとごとばわん
四百十八代ごつちみかどわん
四百十九代ごりょうわん
四百二十代ごしらかわ
四百二十一代ごとばわん
四百二十二代ごつちみかどわん
四百二十三代ごかめやまわん
四百二十四代ごごうだわん
四百二十五代ごりょうわん
四百二十六代ごとばわん
四百二十七代ごあとごとばわん
四百二十八代ごつちみかどわん
四百二十九代ごりょうわん
四百三十代ごしらかわ
四百三十一代ごとばわん
四百三十二代ごつちみかどわん
四百三十三代ごかめやまわん
四百三十四代ごごうだわん
四百三十五代ごりょうわん
四百三十六代ごとばわん
四百三十七代ごあとごとばわん
四百三十八代ごつちみかどわん
四百三十九代ごりょうわん
四百四十代ごしらかわ
四百四十一代ごとばわん
四百四十二代ごつちみかどわん
四百四十三代ごかめやまわん
四百四十四代ごごうだわん
四百四十五代ごりょうわん
四百四十六代ごとばわん
四百四十七代ごあとごとばわん
四百四十八代ごつちみかどわん
四百四十九代ごりょうわん
四百五十代ごしらかわ
四百五十一代ごとばわん
四百五十二代ごつちみかどわん
四百五十三代ごかめやまわん
四百五十四代ごごうだわん
四百五十五代ごりょうわん
四百五十六代ごとばわん
四百五十七代ごあとごとばわん
四百五十八代ごつちみかどわん
四百五十九代ごりょうわん
四百六十代ごしらかわ
四百六十一代ごとばわん
四百六十二代ごつちみかどわん
四百六十三代ごかめやまわん
四百六十四代ごごうだわん
四百六十五代ごりょうわん
四百六十六代ごとばわん
四百六十七代ごあとごとばわん
四百六十八代ごつちみかどわん
四百六十九代ごりょうわん
四百七十代ごしらかわ
四百七十一代ごとばわん
四百七十二代ごつちみかどわん
四百七十三代ごかめやまわん
四百七十四代ごごうだわん
四百七十五代ごりょうわん
四百七十六代ごとばわん
四百七十七代ごあとごとばわん
四百七十八代ごつちみかどわん
四百七十九代ごりょうわん
四百八十代ごしらかわ
四百八十一代ごとばわん
四百八十二代ごつちみかどわん
四百八十三代ごかめやまわん
四百八十四代ごごうだわん
四百八十五代ごりょうわん
四百八十六代ごとばわん
四百八十七代ごあとごとばわん
四百八十八代ごつちみかどわん
四百八十九代ごりょうわん
四百九十代ごしらかわ
四百九十一代ごとばわん
四百九十二代ごつちみかどわん
四百九十三代ごかめやまわん
四百九十四代ごごうだわん
四百九十五代ごりょうわん
四百九十六代ごとばわん
四百九十七代ごあとごとばわん
四百九十八代ごつちみかどわん
四百九十九代ごりょうわん
五百代ごしらかわ
五百一代ごとばわん
五百二代ごつちみかどわん
五百三代ごかめやまわん
五百四代ごごうだわん
五百五代ごりょうわん
五百六代ごとばわん
五百七代ごあとごとばわん
五百八代ごつちみかどわん
五百九代ごりょうわん
五百十代ごしらかわ
五百十一代ごとばわん
五百十二代ごつちみかどわん
五百十三代ごかめやまわん
五百十四代ごごうだわん
五百十五代ごりょうわん
五百十六代ごとばわん
五百十七代ごあとごとばわん
五百十八代ごつちみかどわん
五百十九代ごりょうわん
五百二十代ごしらかわ
五百二十一代ごとばわん
五百二十二代ごつちみかどわん
五百二十三代ごかめやまわん
五百二十四代ごごうだわん
五百二十五代ごりょうわん
五百二十六代ごとばわん
五百二十七代ごあとごとばわん
五百二十八代ごつちみかどわん
五百二十九代ごりょうわん
五百三十代ごしらかわ
五百三十一代ごとばわん
五百三十二代ごつちみかどわん
五百三十三代ごかめやまわん
五百三十四代ごごうだわん
五百三十五代ごりょうわん
五百三十六代ごとばわん
五百三十七代ごあとごとばわん
五百三十八代ごつちみかどわん
五百三十九代ごりょうわん
五百四十代ごしらかわ
五百四十一代ごとばわん
五百四十二代ごつちみかどわん
五百四十三代ごかめやまわん
五百四十四代ごごうだわん
五百四十五代ごりょうわん
五百四十六代ごとばわん
五百四十七代ごあとごとばわん
五百四十八代ごつちみかどわん
五百四十九代ごりょうわん
五百五十代ごしらかわ
五百五十一代ごとばわん
五百五十二代ごつちみかどわん
五百五十三代ごかめやまわん
五百五十四代ごごうだわん
五百五十五代ごりょうわん
五百五十六代ごとばわん
五百五十七代ごあとごとばわん
五百五十八代ごつちみかどわん
五百五十九代ごりょうわん
五百六十代ごしらかわ
五百六十一代ごとばわん
五百六十二代ごつちみかどわん
五百六十三代ごかめやまわん
五百六十四代ごごうだわん
五百六十五代ごりょうわん
五百六十六代ごとばわん
五百六十七代ごあとごとばわん
五百六十八代ごつちみかどわん
五百六十九代ごりょうわん
五百七十代ごしらかわ
五百七十一代ごとばわん
五百七十二代ごつちみかどわん
五百七十三代ごかめやまわん
五百七十四代ごごうだわん
五百七十五代ごりょうわん
五百七十六代ごとばわん
五百七十七代ごあとごとばわん
五百七十八代ごつちみかどわん
五百七十九代ごりょうわん
五百八十代ごしらかわ
五百八十一代ごとばわん
五百八十二代ごつちみかどわん
五百八十三代ごかめやまわん
五百八十四代ごごうだわん
五百八十五代ごりょうわん
五百八十六代ごとばわん
五百八十七代ごあとごとばわん
五百八十八代ごつちみかどわん
五百八十九代ごりょうわん
五百九十代ごしらかわ
五百九十一代ごとばわん
五百九十二代ごつちみかどわん
五百九十三代ごかめやまわん
五百九十四代ごごうだわん
五百九十五代ごりょうわん
五百九十六代ごとばわん
五百九十七代ごあとごとばわん
五百九十八代ごつちみかどわん
五百九十九代ごりょうわん
六百代ごしらかわ
六百一代ごとばわん
六百二代ごつちみかどわん
六百三代ごかめやまわん
六百四代ごごうだわん
六百五代ごりょうわん
六百六代ごとばわん
六百七代ごあとごとばわん
六百八代ごつちみかどわん
六百九代ごりょうわん
六百十代ごしらかわ
六百十一代ごとばわん
六百十二代ごつちみかどわん
六百十三代ごかめやまわん
六百十四代ごごうだわん
六百十五代ごりょうわん
六百十六代ごとばわん
六百十七代ごあとごとばわん
六百十八代ごつちみかどわん
六百十九代ごりょうわん
六百二十代ごしらかわ
六百二十一代ごとばわん
六百二十二代ごつちみかどわん
六百二十三代ごかめやまわん
六百二十四代ごごうだわん
六百二十五代ごりょうわん
六百二十六代ごとばわん
六百二十七代ごあとごとばわん
六百二十八代ごつちみかどわん
六百二十九代ごりょうわん
六百三十代ごしらかわ
六百三十一代ごとばわん
六百三十二代ごつちみかどわん
六百三十三代ごかめやまわん
六百三十四代ごごうだわん
六百三十五代ごりょうわん
六百三十六代ごとばわん
六百三十七代ごあとごとばわん
六百三十八代ごつちみかどわん
六百三十九代ごりょうわん
六百四十代ごしらかわ
六百四十一代ごとばわん
六百四十二代ごつちみかどわん
六百四十三代ごかめやまわん
六百四十四代ごごうだわん
六百四十五代ごりょうわん
六百四十六代ごとばわん
六百四十七代ごあとごとばわん
六百四十八代ごつちみかどわん
六百四十九代ごりょうわん
六百五十代ごしらかわ
六百五十一代ごとばわん
六百五十二代ごつちみかどわん
六百五十三代ごかめやまわん
六百五十四代ごごうだわん
六百五十五代ごりょうわん
六百五十六代ごとばわん
六百五十七代ごあとごとばわん
六百五十八代ごつちみかどわん
六百五十九代ごりょうわん
六百六十代ごしらかわ
六百六十一代ごとばわん
六百六十二代ごつちみかどわん
六百六十三代ごかめやまわん
六百六十四代ごごうだわん
六百六十五代ごりょうわん
六百六十六代ごとばわん
六百六十七代ごあとごとばわん
六百六十八代ごつちみかどわん
六百六十九代ごりょうわん
六百七十代ごしらかわ
六百七十一代ごとばわん
六百七十二代ごつちみかどわん
六百七十三代ごかめやまわん
六百七十四代ごごうだわん
六百七十五代ごりょうわん
六百七十六代ごとばわん
六百七十七代ごあとごとばわん
六百七十八代ごつちみかどわん
六百七十九代ごりょうわん
六百八十代ごしらかわ
六百八十一代ごとばわん
六百八十二代ごつちみかどわん
六百八十三代ごかめやまわん
六百八十四代ごごうだわん
六百八十五代ごりょうわん
六百八十六代ごとばわん
六百八十七代ごあとごとばわん
六百八十八代ごつちみかどわん
六百八十九代ごりょうわん
六百九十代ごしらかわ
六百九十一代ごとばわん
六百九十二代ごつちみかどわん
六百九十三代ごかめやまわん
六百九十四代ごごうだわん
六百九十五代ごりょうわん
六百九十六代ごとばわん
六百九十七代ごあとごとばわん
六百九十八代ごつちみかどわん
六百九十九代ごりょうわん
七百代ごしらかわ
七百一代ごとばわん
七百二代ごつちみかどわん
七百三代ごかめやまわん
七百四代ごごうだわん
七百五代ごりょうわん
七百六代ごとばわん
七百七代ごあとごとばわん
七百八代ごつちみかどわん
七百九代ごりょうわん
七百十代ごしらかわ
七百十一代ごとばわん
七百十二代ごつちみかどわん
七百十三代ごかめやまわん
七百十四代ごごうだわん
七百十五代ごりょうわん
七百十六代ごとばわん
七百十七代ごあとごとばわん
七百十八代ごつちみかどわん
七百十九代ごりょうわん
七百二十代ごしらかわ
七百二十一代ごとばわん
七百二十二代ごつちみかどわん
七百二十三代ごかめやまわん
七百二十四代ごごうだわん
七百二十五代ごりょうわん
七百二十六代ごとばわん
七百二十七代ごあとごとばわん
七百二十八代ごつちみかどわん
七百二十九代ごりょうわん
七百三十代ごしらかわ
七百三十一代ごとばわん
七百三十二代ごつちみかどわん
七百三十三代ごかめやまわん
七百三十四代ごごうだわん
七百三十五代ごりょうわん
七百三十六代ごとばわん
七百三十七代ごあとごとばわん
七百三十八代ごつちみかどわん
七百三十九代ごりょうわん
七百四十代ごしらかわ
七百四十一代ごとばわん
七百四十二代ごつちみかどわん
七百四十三代ごかめやまわん
七百四十四代ごごうだわん
七百四十五代ごりょうわん
七百四十六代ごとばわん
七百四十七代ごあとごとばわん
七百四十八代ごつちみかどわん
七百四十九代ごりょうわん
七百五十代ごしらかわ
七百五十一代ごとばわん
七百五十二代ごつちみかどわん
七百五十三代ごかめやまわん
七百五十四代ごごうだわん
七百五十五代ごりょうわん
七百五十六代ごとばわん
七百五十七代ごあとごとばわん
七百五十八代ごつちみかどわん
七百五十九代ごりょうわん
七百六十代ごしらかわ
七百六十一代ごとばわん
七百六十二代ごつちみかどわん
七百六十三代ごかめやまわん
七百六十四代ごごうだわん
七百六十五代ごりょうわん
七百六十六代ごとばわん
七百六十七代ごあとごとばわん
七百六十八代ごつちみかどわん
七百六十九代ごりょうわん
七百七十代ごしらかわ
七百七十一代ごとばわん
七百七十二代ごつちみかどわん
七百七十三代ごかめやまわん
七百七十四代ごごうだわん
七百七十五代ごりょうわん
七百七十六代ごとばわん
七百七十七代ごあとごとばわん
七百七十八代ごつちみかどわん
七百七十九代ごりょうわん
七百八十代ごしらかわ
七百八十一代ごとばわん
七百八十二代ごつちみかどわん
七百八十三代ごかめやまわん
七百八十四代ごごうだわん
七百八十五代ごりょうわん
七百八十六代ごとばわん
七百八十七代ごあとごとばわん
七百八十八代ごつちみかどわん
七百八十九代ごりょうわん
七百九十代ごしらかわ
七百九十一代ごとばわん
七百九十二代ごつちみかどわん
七百九十三代ごかめやまわん
七百九十四代ごごうだわん
七百九十五代ごりょうわん
七百九十六代ごとばわん
七百九十七代ごあとごとばわん
七百九十八代ごつちみかどわん
七百九十九代ごりょうわん
八百代ごしらかわ
八百一代ごとばわん
八百二代ごつちみかどわん
八百三代ごかめやまわん
八百四代ごごうだわん
八百五代ごりょうわん
八百六代ごとばわん
八百七代ごあとごとばわん
八百八代ごつちみかどわん
八百九代ごりょうわん
八百十代ごしらかわ
八百十一代ごとばわん
八百十二代ごつちみかどわん
八百十三代ごかめやまわん
八百十四代ごごうだわん
八百十五代ごりょうわん
八百十六代ごとばわん
八百十七代ごあとごとばわん
八百十八代ごつちみかどわん
八百十九代ごりょうわん
八百二十代ごしらかわ
八百二十一代ごとばわん
八百二十二代ごつちみかどわん
八百二十三代ごかめやまわん
八百二十四代ごごうだわん
八百二十五代ごりょうわん
八百二十六代ごとばわん
八百二十七代ごあとごとばわん
八百二十八代ごつちみかどわん
八百二十九代ごりょうわん
八百三十代ごしらかわ
八百三十一代ごとばわん
八百三十二代ごつちみかどわん
八百三十三代ごかめやまわん
八百三十四代ごごうだわん
八百三十五代ごりょうわん
八百三十六代ごとばわん
八百三十七代ごあとごとばわん
八百三十八代ごつちみかどわん
八百三十九代ごりょうわん
八百四十代ごしらかわ
八百四十一代ごとばわん
八百四十二代ごつちみかどわん
八百四十三代ごかめやまわん
八百四十四代ごごうだわん
八百四十五代ごりょうわん
八百四十六代ごとばわん
八百四十七代ごあとごとばわん
八百四十八代ごつちみかどわん
八百四十九代ごりょうわん
八百五十代ごしらかわ
八百五十一代ごとばわん
八百五十二代ごつちみかどわん
八百五十三代ごかめやまわん
八百五十四代ごごうだわん
八百五十五代ごりょうわん
八百五十六代ごとばわん
八百五十七代ごあとごとばわん
八百五十八代ごつちみかどわん
八百五十九代ごりょうわん
八百六十代ごしらかわ
八百六十一代ごとばわん
八百六十二代ごつちみかどわん
八百六十三代ごかめやまわん
八百六十四代ごごうだわん
八百六十五代ごりょうわん
八百六十六代ごとばわん
八百六十七代ごあとごとばわん
八百六十八代ごつちみかどわん
八百六十九代ごりょうわん
八百七十代ごしらかわ
八百七十一代ごとばわん
八百七十二代ごつちみかどわん
八百七十三代ごかめやまわん
八百七十四代ごごうだわん
八百七十五代ごりょうわん
八百七十六代ごとばわん
八百七十七代ごあとごとばわん
八百七十八代ごつちみかどわん
八百七十九代ごりょうわん
八百八十代ごしらかわ
八百八十一代ごとばわん
八百八十二代ごつちみかどわん
八百八十三代ごかめやまわん
八百八十四代ごごうだわん
八百八十五代ごりょうわん
八百八十六代ごとばわん
八百八十七代ごあとごとばわん
八百八十八代ごつちみかどわん
八百八十九代ごりょうわん
八百九十代ごしらかわ
八百九十一代ごとばわん
八百九十二代ごつちみかどわん
八百九十三代ごかめやまわん
八百九十四代ごごうだわん
八百九十五代ごりょうわん
八百九十六代ごとばわん
八百九十七代ごあとごとばわん
八百九十八代ごつちみかどわん
八百九十九代ごりょうわん
九百代ごしらかわ
九百一代ごとばわん
九百二代ごつちみかどわん
九百三代ごかめやまわん
九百四代ごごうだわん
九百五代ごりょうわん
九百六代ごとばわん
九百七代ごあとごとばわん
九百八代ごつちみかどわん
九百九代ごりょうわん
九百十代ごしらかわ
九百十一代ごとばわん
九百十二代ごつちみかどわん
九百十三代ごかめやまわん
九百十四代ごごうだわん
九百十五代ごりょうわん
九百十六代ごとばわん
九百十七代ごあとごとばわん
九百十八代ごつちみかどわん
九百十九代ごりょうわん
九百二十代ごしらかわ
九百二十一代ごとばわん
九百二十二代ごつちみかどわん
九百二十三代ごかめやまわん
九百二十四代ごごうだわん
九百二十五代ごりょうわん
九百二十六代ごとばわん
九百二十七代ごあとごとばわん
九百二十八代ごつちみかどわん
九百二十九代ごりょうわん
九百三十代ごしらかわ
九百三十一代ごとばわん
九百三十二代ごつちみかどわん
九百三十三代ごかめやまわん
九百三十四代ごごうだわん
九百三十五代ごりょうわん
九百三十六代ごとばわん
九百三十七代ごあとごとばわん
九百三十八代ごつちみかどわん
九百三十九代ごりょうわん
九百四十代ごしらかわ
九百四十一代ごとばわん
九百四十二代ごつちみかどわん
九百四十三代ごかめやまわん
九百四十四代ごごうだわん
九百四十五代ごりょうわん
九百四十六代ごとばわん
九百四十七代ごあとごとばわん
九百四十八代ごつちみかどわん
九百四十九代ごりょうわん
九百五十代ごしらかわ
九百五十一代ごとばわん
九百五十二代ごつちみかどわん
九百五十三代ごかめやまわん
九百五十四代ごごうだわん
九百五十五代ごりょうわん
九百五十六代ごとばわん
九百五十七代ごあとごとばわん
九百五十八代ごつちみかどわん
九百五十九代ごりょうわん
九百六十代ごしらかわ
九百六十一代ごとばわん
九百六十二代ごつちみかどわん
九百六十三代ごかめやまわん
九百六十四代ごごうだわん
九百六十五代ごりょうわん
九百六十六代ごとばわん
九百六十七代ごあとごとばわん
九百六十八代ごつちみかどわん
九百六十九代ごりょうわん
九百七十代ごしらかわ
九百七十一代ごとばわん
九百七十二代ごつちみかどわん
九百七十三代ごかめやまわん
九百七十四代ごごうだわん
九百七十五代ごりょうわん
九百七十六代ごとばわん
九百七十七代ごあとごとばわん
九百七十八代ごつちみかどわん
九百七十九代ごりょうわん
九百八十代ごしらかわ
九百八十一代ごとばわん
九百八十二代ごつちみかどわん
九百八十三代ごかめやまわん
九百八十四代ごごうだわん
九百八十五代ごりょうわん
九百八十六代ごとばわん
九百八十七代ごあとごとばわん
九百八十八代ごつちみかどわん
九百八十九代ごりょうわん
九百九十代ごしらかわ
九百九十一代ごとばわん
九百九十二代ごつちみかどわん
九百九十三代ごかめやまわん
九百九十四代ごごうだわん
九百九十五代ごりょうわん
九百九十六代ごとばわん
九百九十七代ごあとごとばわん
九百九十八代ごつちみかどわん
九百九十九代ごりょうわん
一千代ごしらかわ
一千一代ごとばわん
一千二代ごつちみかどわん
一千三代ごかめやまわん
一千四代ごごうだわん
一千五代ごりょうわん
一千六代ごとばわん
一千七代ごあとごとばわん
一千八代ごつちみかどわん
一千九代ごりょうわん
一千十代ごしらかわ
一千十一代ごとばわん
一千十二代ごつちみかどわん
一千十三代ごかめやまわん
一千十四代ごごうだわん
一千十五代ごりょうわん
一千十六代ごとばわん
一千十七代ごあとごとばわん
一千十八代ごつちみかどわん
一千十九代ごりょうわん
一千二十代ごしらかわ
一千二十一代ごとばわん
一千二十二代ごつちみかどわん
一千二十三代ごかめやまわん
一千二十四代ごごうだわん
一千二十五代ごりょうわん
一千二十六代ごとばわん
一千二十七代ごあとごとばわん
一千二十八代ごつちみかどわん
一千二十九代ごりょうわん
一千三十代ごしらかわ
一千三十一代ごとばわん
一千三十二代ごつちみかどわん
一千三十三代ごかめやまわん
一千三十四代ごごうだわん
一千三十五代ごりょうわん
一千三十六代ごとばわん
一千三十七代ごあとごとばわん
一千三十八代ごつちみかどわん
一千三十九代ごりょうわん
一千四十代ごしらかわ
一千四十一代ごとばわん
一千四十二代ごつちみかどわん
一千四十三代ごかめやまわん
一千四十四代ごごうだわん
一千四十五代ごりょうわん
一千四十六代ごとばわん
一千四十七代ごあとごとばわん
一千四十八代ごつちみかどわん
一千四十九代ごりょうわん
一千五十代ごしらかわ
一千五十一代ごとばわん
一千五十二代ごつちみかどわん
一千五十三代ごかめやまわん
一千五十四代ごごうだわん
一千五十五代ごりょうわん
一千五十六代ごとばわん
一千五十七代ごあとごとばわん
一千五十八代ごつちみかどわん
一千五十九代ごりょうわん
一千六十代ごしらかわ
一千六十一代ごとばわん
一千六十二代ごつちみかどわん
一千六十三代ごかめやまわん
一千六十四代ごごうだわん
一千六十五代ごりょうわん
一千六十六代ごとばわん
一千六十七代ごあとごとばわん
一千六十八代ごつちみかどわん
一千六十九代ごりょうわん
一千七十代ごしらかわ
一千七十一代ごとばわん
一千七十二代ごつちみかどわん
一千七十三代ごかめやまわん
一千七十四代ごごうだわん
一千七十五代ごりょうわん
一千七十六代ごとばわん
一千七十七代ごあとごとばわん
一千七十八代ごつちみかどわん
一千七十九代ごりょうわん
一千八十代ごしらかわ
一千八十一代ごとばわん
一千八十二代ごつちみかどわん
一千八十三代ごかめやまわん
一千八十四代ごごうだわん
一千八十五代ごりょうわん
一千八十六代ごとばわん
一千八十七代ごあとごとばわん
一千八十八代ごつちみかどわん
一千八十九代ごりょうわん
一千九十代ごしらかわ
一千九十一代ごとばわん
一千九十二代ごつちみかどわん
一千九十三代ごかめやまわん
一千九十四代ごごうだわん
一千九十五代ごりょうわん
一千九十六代ごとばわん
一千九十七代ごあとごとばわん
一千九十八代ごつちみかどわん
一千九十九代ごりょうわん
二千代ごしらかわ
二千一代ごとばわん
二千二代ごつちみかどわん
二千三代ごかめやまわん
二千四代ごごうだわん
二千五代ごりょうわん
二千六代ごとばわん
二千七代ごあとごとばわん
二千八代ごつちみかどわん
二千九代ごりょうわん
二千十代ごしらかわ
二千十一代ごとばわん
二千十二代ごつちみかどわん
二千十三代ごかめやまわん
二千十四代ごごうだわん
二千十五代ごりょうわん
二千十六代ごとばわん
二千十七代ごあとごとばわん
二千十八代ごつちみかどわん
二千十九代ごりょうわん
二千二十代ごしらかわ
二千二十一代ごとばわん
二千二十二代ごつちみかどわん
二千二十三代ごかめやまわん
二千二十四代ごごうだわん
二千二十五代ごりょうわん
二千二十六代ごとばわん
二千二十七代ごあとごとばわん
二千二十八代ごつちみかどわん
二千二十九代ごりょうわん
二千三十代ごしらかわ
二千三十一代ごとばわん
二千三十二代ごつちみかどわん
二千三十三代ごかめやまわん
二千三十四代ごごうだわん
二千三十五代ごりょうわん
二千三十六代ごとばわん
二千三十七代ごあとごとばわん
二千三十八代ごつちみかどわん
二千三十九代ごりょうわん
二千四十代ごしらかわ
二千四十一代ごとばわん
二千四十二代ごつちみかどわん
二千四十三代ごかめやまわん
二千四十四代ごごうだわん
二千四十五代ごりょうわん
二千四十六代ごとばわん
二千四十七代ごあとごとばわん
二千四十八代ごつちみかどわん
二千四十九代ごりょうわん
二千五十代ごしらかわ
二千五十一代ごとばわん
二千五十二代ごつちみかどわん
二千五十三代ごかめやまわん
二千五十四代ごごうだわん
二千五十五代ごりょうわん
二千五十六代ごとばわん
二千五十七代ごあとごとばわん
二千五十八代ごつちみかどわん
二千五十九代ごりょうわん
二千六十代ごしらかわ
二千六十一代ごとばわん
二千六十二代ごつちみかどわん
二千六十三代ごかめやまわん
二千六十四代ごごうだわん
二千六十五代ごりょうわん
二千六十六代ごとばわん
二千六十七代ごあとごとばわん
二千六十八代ごつちみかどわん
二千六十九代ごりょうわん
二千七十代ごしらかわ
二千七十一代ごとばわん
二千七十二代ごつちみかどわん
二千七十三代ごかめやまわん
二千七十四代ごごうだわん
二千七十五代ごりょうわん
二千七十六代ごとばわん
二千七十七代ごあとごとばわん
二千七十八代ごつちみかどわん
二千七十九代ごりょうわん
二千八十代ごしらかわ
二千八十一代ごとばわん
二千八十二代ごつちみかどわん
二千八十三代ごかめやまわん
二千八十四代ごごうだわん
二千八十五代ごりょうわん
二千八十六代ごとばわん
二千八十七代ごあとごとばわん
二千八十八代ごつちみかどわん
二千八十九代ごりょうわん
二千九十代ごしらかわ
二千九十一代ごとばわん
二千九十二代ごつちみかどわん
二千九十三代ごかめやまわん
二千九十四代ごごうだわん
二千九十五代ごりょうわん
二千九十六代ごとばわん
二千九十七代ごあとごとばわん
二千九十八代ごつちみかどわん
二千九十九代ごりょうわん
三千代ごしらかわ
三千一代ごとばわん
三千二代ごつちみかどわん
三千三代ごかめやまわん
三千四代ごごうだわん
三千五代ごりょうわん
三千六代ごとばわん
三千七代ごあとごとばわん
三千八代ごつちみかどわん
三千九代ごりょ

みづのえたつ成れば四人ぶん
れいぜいさだれいりんかも
かれあれくたんじやうも
あくさいむまきたまふさそ
又あくこのあるてじも
七十六代めんあのみん
ちまさぬえとやうりは
かしら祈のあつや石の年
かやぶんへいち世みえん

ちくだの西てしたし
あるさかりえん三年ゴ
どもさんれいぢえ年ゴ
ぶれい祈の宮んみんじ
こあるあさのうはうんとも
かくちふ祈ちあれくぐんも
仁年のさつきじもよは
七十七代ごぞくも
七十八代二條の四年

平治よりつたんじやも
祈りのいろうや
ぶいまん元年なつれろ
さりのいづこのまくとうや
さいねめんりん三年
ちせうのさつめ大ごうり
ちせうの四年かなくてあ
くらしあせん山て果治
祈ぐ沈ぜう秋のう祈

今ぐ西暦又今ひうし
ていれたんじやれかぐ
まんげまうめんくらう
七十九代ハ六條乃
八十代いたくくれ
大ぐでんもえんやも
文のれむりんまくて
ちあ西さ一けちつたちも
よりともらんとおこも

大ぶやの[illegible]きよりんじ[illegible]
火の病(やまい)をわづらひ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大師でいらせたまふ
ひく年一百二十ひき
ぎんくのはめつぢゝやま
六ゝだゝのえんゝやを
ごとばのりんくん年中ゝり
中旬のはゝごやゝ志と
せいきゝのるぼさ所くし
八十三代ゝちみうぞ
ぎんくん元年三月廿日

ゝうら一れとくぼまたのせ
くやゝいりんくん六年とぞ
わゝ九月のはゝまぶ
さぶれやうなり高ざゝの
りんくん九年一月廿
ぎんくんのすゝやゝとこの
ぬというまゝゝくれど
りんくん元年ぎんせ、ぞま
ごゝまゝくせゝゝやゝ

ぬ日ぞゝごゝあるゝさゝとの
はゝさゝごのてゝあゝてゝし
月のまゝのゝ二ぎんかを
ゝ九年ゝゝ三日ゝ志と
八十三代ごゝんゝゝの
ぎんくんからのはゝてぞうせん
小野の一ぞ松ゝゝ
おちゝまゝゝゝゝぞゝせゝゝ
せゝゝ公年かぜゝ

ぎゝ九ゝゝゝゝ有に
ゝゝんいゝゝを人ゝれど
ぼゝゝ二十八ゝゝや
これ村上のゝのゝゝとそ
ぎんくん二年りゝ
山門ゝゝゝ寺ゝゝく
せゝゝゝ元年ゝゝゝの
ぎゝんのゝゝゝゝゝゝゝ
せゝ公三年ゝゝゝゝく

ごとのゐんのれいさい寺よりはじめきの國とそやしくるぶんさく院いさごのくふまれもとのぶちみどしたにもまもるぶとくれさとかりうれひとり松おわるべさうはよいわしのたりとやあしかし元年天しりそうぶまりしたなかりしうしかしこみやたにしたんせしをなんみんそくよ死とうや

式目とさだめ世いだいをかんとの、あくるわまをかて、のはかりとしをみんぢ二年八月廿日八十七代ごさうれみんひ日廿へさかりをを八十八代ごあくさかりでは松みんをしをこしてもん二年ちんらん元

八十六代ゐ除の正宇てんぐうのすぎとくまきみんとつを上海ていうれさやしをとやくりんぐんゐ年ちんけいこれをんちやのさうんをくんちやしをを八十九代う光山のぢんゐのはわさ日三う

ぐんぢ、と二年あるべしとて
ひたすら軍れ上洛
ゆさいぐぜんぢ、十年より
ぐさうぐれかんのれこと
今より九十ごうごのかん
ぐさうれんのけ川のうぞ
一千ばかりとうれこれ
そのうぞらいのごくとぞ
さだとぐぜんうち大念佛
ぢまんのぢぐと日けかろ
大風ありてやうとうあり
ぐさうれんぢ年ぶかられ
九十一代ゆうれのけ字
ぢけらうんぶきるもの
いくさ西のねぢうぞ
まぐぢ、みんのけうんぶも
たけ千ばかりけしぐぞ

ぢ、ぶんの二年天王寺の
九十二代いぐうりこの
九十二代ぐぐこうれ
九十二代いけれそれ
ぢぐぢのあくぐうとぐぞ
ぢ年ぐうりけりせけ
ぐんぢうれんぢものぐれ
ぢくじぐめうぢんぐ
ぢけたてうぐうれんぐ

ぢのぢ年をぐうれとうや
ぢさいぬ三年ぐうとやいぐ
けぐんけたうぐうやぐぐ
えん年のけ大水うり
みえん年けぶんのうりり
人ぢうれ九十ぢぐけぐ
みぢ太平紀けうぐくり
このうぐぢうのれ時うれ
けうりさ和のけしぐんう

人皇九十六代光孝
かつらぎ流の山所より
九十七代こだいご
九十八代くりやもの
くれ年のえのいさごろ
山代の時よりもとも
天竺のもさいろくわり
むさしあくしの天皇じ
いとくとくは馬のさを
一丈一尺三寸なり
九十九代八百くりのてい
くりんかり二年ふるとも
佛わ二ゑ三百年
えんぎのれいづるり
人皇百代ごりやぜん

光孝
月ちまわるとも
ひかりおかく殺あそ
たり民ちてしわさう
とかえんぎんのはくや
月かくれ年れ滅河
一さいきやしのもこよう
わぐんこうしてわります
くれ年のえれ宝だらく
二百ろてゐくことなり

扨ちくろ石さなろ
扨天皇しえんやす
きやぐんかうんじ法ろも
扨こうわじのちやれそう
ぐんこうきやちくかち
ていぢのすあまりわこう
かりわんのれこうやこよハ
世とてこと之の日のごし
るいしぜんごしんこどとど

百一代いごえんゆう
山一どのゝ内くさぞ
あいとく三年ゝ月
ゆいとく三年十二月
うらみくさおいぶ
却へりれりまと
かすのゝ中だりなてる
帰くいがゞひのたとや
長日のえんかくさす

ゆうさいぶくさ
北ちんてんさ内くさ
ひらのえんよ郡へ房
わざとをもはさけ
みなくれすらゞい
もしとも日ゝ年くさぞ
百六代ゆいごれぞの
まさまん家じもやるこ
ゆう民むすくけちのこ

とよとやゝあい年中は
百三代ハせくらゝわん
その夜そえんだろす
上枝えんごひんの事
上房うれ国へせゝぞの
みなまれすあい年中
あいゝ年六年ゝまぐゞ
あいゝ十八房ゝ乃
ゆう民むすくけちのこ

きさらのもちのぬくやけのわんがいまのがいたてまつり
ぜんわうしゆうまつりあづかり
わうれんらうあたまをまつり
たまうんしゆうさいをいの
もとのしゆうえんやまます
そのほかはうじやくく
ゑ白門ようどうとも
やかりの二ようの百年
でんけいりさてしまれ
うさいのぢらしようかうを
こうをやうのぜんぢめ
ゑ

四月一日三の日を
又八六日ろ二の日
ちらしまれてう多あり
ごうら門八百五代
八ちうのかうさ、ちびう
みうんあづとぜ雨しま
あもうけ山をいりし
ぐぐやりの多くぢめら
ぢこ八ぢんの花しけり

二日きーん月北ろま
まご三日いやうしからう
ぢんごむをぢ
大水大風かきが
ぜんやのほせいまのぜ
山ぬかを門ぐとわうそひ
ぐんげうを文ようやし幸ほ
外社ぢうぐ
世八ぐんぐんのうらんし

もしこのやまとの
かぎりはそのかみ仕
三十四年さつきとし
くれなゐの色もあり
みそらんとくゐ天神の
めいおう七年大そうくん
百六代ごうしゆん
七こくのはそうにとそ
百七代ごすいこのあん

くさはもとゆ人をなり
せいさつ二万五百年
あらそく八年ちうてう
くつりくんのあんとい
大仏でんしえんやを
ぐんき三年ちのしろ
日かのてんだいあいえん
天しやう六年すさのを
又天りやくじのぐそもみ

ぶつ人山ちうの
めいおう九年ふかくまて
なり一ぬりうぐ
月三ゐつる時をわり
山野のうやそうもちんーやを
みそのうれつわりうけて
あーやた三年ちう日の森
ゐれを山ちうせんもわり
天ごうし大きなる三
天ちう二十りのつり
百代にいきもん

天正九年のころうんの
六月二日ぶぬでんとさ
六月二日のつがた
十三年おひでしは
ごぶくせ、ゐん百九代
ひでけぐさぐにおそらし
天正十九ひでけぐい
てんそく元年ひでしこし
まひうしらとおうらと
ぬんろくぐ年ひでぐい
けいちや二年、ぶやとい
ゆげさわ草らひてし
ぬぐ七月大地ろん
ぶうしひでしこせろ
けいぶ六年石田ぢぶ
天命のれぐくして
それて天下ゆうかろ
ぬの大仏ろんせしは

のぶぶ年ぎし治く
おちうさ天ゆ十年お
わけらぶたゆぐせて
ゆくりんぢくぶぬろ
天ゆ十八年のも
かうでしけとちくと
ゆくりんぢくぶけんぢく
きうんとぢりんころぶ
三年おあうひうぬとし
まそおひぢんとちんぢを
けいぶ二年の八月う
まんちうさ國天明神とぢ
わくぎゆぶうのもん故
三月う内ひみかうぶ
けぶ六七年十二月
ぬうくけぶ六十六年

三月二十七日
なのかくがつ十一日
けいえ十八年の十月
五ごまーわてやりくち
大阪ぢてへくらふを
はの國てんのうじ天王寺
ぐんと元年六月八日
ちらぐとそのあをとのうえ
ものの内てのくもを
山のうちのかとりまて
くらのかとりまて
いえやとこじるとこで
そのちすくらし天王寺
ぐんと三年八月
なのかきこの年八月六日
やくさのうんさかしづ
ぐんと六年ちのうち
さがーうちしかさまち

すてしぐすくのかさぐめ
山那位くくそやそれ
しやくびやく
赤白のけいえくくやくも
けいえ十九いえやとまー
まえち明年ちのうち
いづくのさういもぐーまも
ひでくやとは脇やくくとで
ぐんぢおーて打ぢ
くまの夫賊だぐく男分

門より高地あり上より
とういくのれうんどや
ゆだん
ゆ軍又子の門上海
ゆ軍ひでだ大臣
その外一門の人々は
三位ゆ位ゆ位と
きりきりとあり〳〵ぞと
さふいたどやう大臣
いあうこうこいたたじん

女一のみや女二のみや
くりんあい三年秋のころ
すあいちゆ内きりして
ひとあいあこのうえたじん
大納を中納を宰相
すゑのびまろ月卿雲客
やで行幸すきやうり
ゆうきあけまして
せいすゆ軍こして

ふゆ〳〵千秋万歳と
めでたきのこまをうれ

じんむ
神武ゆ歳勢まく
ちうあ
仲哀成務のれおうく
ゆうりん ゆうく
應神仁徳ゆ代のてい
ゆうく
みな仁徳の門子なり
りんりんめ位こせい神いい
ちんそうにんりんちうの

十三代ハゆ代ゆてい
神功いゑまれきこれ
りちう
履中ちんせいりんぐうハ
りんりん雄略二代帝
ゑ雄略の門子なり
武列ハりんちんれつそ

麻績氏代のれ孫なり
次の推古ハ女帝なり
びこの用明ゐもごゐんの帝
ぎょくびこのれ孫なり
叩ぎくいそのれ孫
天智天武いもぎょくめとこ
同じく天智の御むすめ
もわひろんしゆ天皇こ

なりし帝のれ孫なり
せしきくハ又ごくんの
光仁天皇のれ孫なり
平城さうや淳和さく
仁明後鳥羽のれ子なり
ハ代まで代の帝なり
深草ハ第三のれ子
次第くのみぐるり
冷泉えゆ二代のらく

次の孝徳天皇ハ
もいこ天武のれ孫
二代在位の御名なり
次の恒武いそのれ子
二代のらくハぐ
文徳清和陽成院
仁和のくり天皇ハ
ぐやだごゐ朱雀院
天暦朱雀のれ孫

村上せいさい一條を
紫山三條安和のみこと
ばかりなり
堀河院の御子
白川院
二條六条院代の帝
堀白川の御子
みなもとの御子
後白川の御子

園城寺の御子なり
一條の御子堀一條
堀冷泉このせ二代
白川堀川鳥羽
近衛と崇徳白川
高倉院とやせ
安徳後鳥羽せ二代
土御門とゆんとくせ二代
後堀河の御子なり

院院はその御子
後の深草亀山も
亀山の王子後宇多院
なりこの御子
とをゆ伏見の御子なり
後宇多院の御太子
みなもとの御太子
くらゐもんの御太子
東宮くれみくなり

後嵯峨御子の王子
とをゆ御子なり
伏見院とやせ
なのうしも紫園も
後二条も
光厳院と光明も
こうゑんゆ御子
東宮の御兄なり

後土御門や後柏原も承
光明門院より近衛殿
ゆかりされ御湯殿院ハ
もみこ高今万歳のさま

寛永丙子孟春吉旦
中野市右衛門新刊